

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0201	科 目 名	建築計画 A			科目区分	兼任
科 目 群	建築計画	担当講師	原田智章			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座 建築計画			教材・参考書：プリント、写真（プロジェクター）			
成績評価	出席状況 35%、事例調査 35%、実習課題 10%、レポート課題 20%の比率にて評価を行う。						

1. 授業概要

主要なビルディングタイプの事例を通して各種施設の歴史的、計画学的、意匠的、構造的、設備的な視点を横断して講義を行い建物の原理と実践、さらには先進的知識を学習する。

2. 到達目標

生徒各自の調査と発表を通じ、数多の建築事例に触れ、現状の問題認識とこれからの施設計画のあり方について、見通す思考力と自ら評価する能力を身につける。加えて、設計演習に活きる有効な知識を得る。

3. 授業計画

前半	
1	授業概要説明
2	建築計画の領域と設計の関係
3	住様式と住宅の変化
4	戸建住宅
5	事例調査発表：伝統的住宅
6	事例調査発表：建築家の独立住宅
7	集合住宅の計画 1 団地計画
8	集合住宅の計画 2 集合住宅の種類
9	事例調査発表：集合住宅
10	実習課題：住宅の機能的間取り
11	細部計画 1 人間の基本動作 水廻りの計画
12	事例調査発表：台所設備
13	細部計画 2 移動のための寸法 階段と傾斜路
14	事例調査発表：階段
15	幼稚園・保育園の計画 1 幼稚園の変遷
16	幼稚園・保育園の計画 2 幼稚園の計画と各室計画
17	事例調査発表：幼稚園・保育園
18	レポート課題発表
後半	
1	前期授業の振り返り
2	後期授業概要説明
3	小学校・中学校の計画 1 小学校・中学校の変遷
4	小学校・中学校の計画 2 新しい教育形態への対応
5	事例調査発表：小学校・中学校
6	生活圏とコミュニティ施設
7	図書館の計画 1 公共図書館の変遷と役割
8	図書館の計画 2 地域図書館の計画と各室計画
9	事例調査発表：図書館
10	実習課題：公共トイレの計画

1 1	美術館の計画 1 美術館の変遷
1 2	美術館の計画 2 美術館の計画と各室計画
1 3	事例調査発表：美術館
1 4	コミュニティーセンター・公民館の計画 1 地域集会施設の概要
1 5	コミュニティーセンター・公民館の計画 2 コミュニティーセンター・公民館の計画
1 6	事例調査発表：コミュニティーセンター
1 7	レポート課題発表
1 8	後期講座振り返り まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0202	科 目 名	建築計画 B			科目区分	兼任
科 目 群	建築計画	担当講師	原田智章			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座 建築計画			教材・参考書：プリント、写真（プロジェクター）			
成績評価	出席状況 35%、事例調査 35%、実習課題 10%、レポート課題 20%の比率にて評価を行う。						

1. 授業概要

主要なビルディングタイプの事例を通して各種施設の歴史的、計画学的、意匠的、構造的、設備的な視点を横断して講義を行い建物の原理と実践、さらには先進的知識を学習する。

2. 到達目標

生徒各自の調査と発表を通じ、数多の建築事例に触れ、現状の問題認識とこれからの施設計画のあり方について、見通す思考力と自ら評価する能力を身につける。加えて、設計演習に活きる有効な知識を得る。

3. 授業計画

前半	
1	授業概要説明
2	高齢社会と建築計画
3	事例調査発表：ユニバーサルデザイン
4	病院の計画 1 病院の誕生と計画
5	病院の計画 2 病院の部門構成と各室計画
6	事例調査発表：病院
7	高齢者施設の計画 1 高齢者施設の分類
8	高齢者施設の計画 2 高齢者施設の各室計画
9	事例調査発表：高齢者施設
10	商業施設の規模計画と経済効率
11	事務所ビルの計画 1 事務所ビルの変遷
12	事務所ビルの計画 2 事務所ビルの計画と各室計画
13	事例調査発表：事務所ビル
14	実習課題 1：オフィスレイアウト
15	宿泊施設の計画 1 宿泊施設の変遷とホテルの種類
16	宿泊施設の計画 2 ホテルの計画と各室計画
17	事例調査発表：宿泊施設
18	レポート課題発表
後半	
1	前期授業の振り返り
2	後期授業概要説明
3	劇場・音楽ホールの計画 1 劇場・音楽ホールの変遷と計画
4	劇場・音楽ホールの計画 2 客席の計画と舞台の計画
5	事例調査発表：劇場・ホール
6	百貨店・スーパーマーケットの計画 1 百貨店・スーパーマーケットの変遷
7	百貨店・スーパーマーケットの計画 2 大規模小売店舗の計画と売り場の計画
8	事例調査発表：百貨店・スーパーマーケット
9	駐車場の計画

1 0	実習課題 2 : 駐車場のレイアウト
1 1	外部空間の計画
1 2	事例調査発表 : ランドスケープ
1 3	自然現象の知覚 寒暑感覚と建築
1 4	事例調査発表 : パッシブデザイン
1 5	視覚と建築 聴覚と建築
1 6	事例調査発表 : 窓
1 7	レポート課題発表
1 8	後期講座振り返り まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0203	科 目 名	建築史		科目区分	専任	
科 目 群	建築計画	担当講師	関 和明		履修区分	講義	
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	大橋竜太ほか『コンパクト版 建築史』			教材・参考書 配布資料			
成績評価	期末レポート、その他平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

現在から過去へ、時間を遡るようにして、主に西欧の建築の歴史を辿ります。時代と地域が生み出した「様式」とその変化、技術と社会、そして固有の宗教観念や芸術思想などの背景についても解説します。数多くの図面や映像などのビジュアル資料を用いることによって、概念としてだけでなく感覚的な理解が得られるようにします。

2. 到達目標

「建築のはじまり」を求めて、各時代の多様な建築作品の変遷をたどることにより、「建築の本質」とその可能性について、考察することの意義を明らかにします。

3. 授業計画

1	イントロダクション
2	現代（21世紀）
3	近代（20世紀）
4	近代（19世紀）
5	前近代（古典主義と諸様式の混淆、折衷）
6	近世（ロココ、バロック）
7	近世（マニエリスム）
8	近世（ルネサンス）
9	中世（ゴシック、ロマネスク）
10	中世（ビザンチン）
11	古典古代（ローマ）
12	古典古代（ギリシャ）
13	古代オリエント（エジプト）
14	古代オリエント（メソポタミア）
15	東洋の建築（1：日本、韓国、中国）
16	東洋の建築（2：イスラーム、インドほか）
17	建築のはじまり
18	まとめとレポート作成

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0204	科 目 名	都市計画			科目区分	専任・実務系教員
科 目 群	建築計画	担当講師	小川 貴之			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	『都市計画とまちづくりがわかる本』伊藤雅春他 彰国社			教材・参考書：随時プリントを配布			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）、平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

歴史的、技術的な側面から、都市計画・まちづくりの基本を学ぶ。

2. 到達目標

事例を通して、都市計画、まちづくりの手法や法規的制約などの知識が習得できる。 講義形式を基本とするが、K J 法を用いたワークショップを行うなど実用的な学習も体験する。担当教員は、都市計画マスタープラン策定委員に関わった経験があり、都市計画、まちづくりの実務経験に基づき実際の業務に近い授業を展開する。
--

3. 授業計画

後期	
1	ガイダンス（授業概要説明）
2	都市とは何か。都市計画、まちづくりの定義
3	世界の都市計画史と思潮-1 古代～近世まで
4	日本の都市計画史と思潮-2 近代～現代まで
5	日本の都市計画史と思潮
6	都市計画史まとめ
7	都市計画の枠組み-1 都市計画と関連法規
8	都市計画の枠組み-2 都市計画法の位置づけと体系
9	都市計画の枠組み-3 都市のマスタープランについて
1 0	都市計画の枠組み-4 区画整理事業、開発許可制度について
1 1	都市計画の枠組み-5 地区計画、建築協定について
1 2	関連法規事例紹介、まとめ
1 3	諸外国の都市計画制度
1 4	参加のデザインとまちづくり 事例紹介
1 5	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-1
1 6	参加のデザインとまちづくり ワークショップ体験-2
1 7	テーマ別まちづくり-1
1 8	テーマ別まちづくり-2

科目の教育目標・授業計画					「2025 年度」		学 科 名	建築科
科目番号	0205	科 目 名	インテリア計画			科目区分	兼任	
科 目 群	インテリア	担当講師	益田あけみ			履修区分	講義	
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修	
教 科 書	インテリア計画の知識			教材・参考書				
成績評価	授業参加と演習を総合的に評価する							

1. 授業概要

本来、建築とインテリアをまったく切りはなして考えることはできない。建築を扱う際に無視できない、インテリアの基礎知識を身につける。

2. 到達目標

人間工学に基づく基本的な事項をしっかりと学び、建築計画に生かせるようにするとともに、図面としては、平面図・展開図の表現と読み取りを修得する。

3. 授業計画

1	導入 講師自己紹介／建築に占めるインテリアの位置づけ／今後の授業計画
2	第1章、2：インテリアと住生活 ①②
3	第1章、3：インテリアと人間 人間の形態人体寸法の実測、教室の実測、
4	第1章 3：インテリアと人間 視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚
5	平面図、展開図、天井伏せ図の説明
6	展開図、天井伏図作成演習
7	計画の基本寸法、モジュール
8	平面プランの作成
9	作成した計画案の展開図、天井伏せ図、断面図
10	第1章3：インテリアと人間 動作
11	第1章3：インテリアと人間 行動、椅子、机、ベッド
12	第2章3：インテリアエレメント 家具
13	第1章4：光 色
14	第1章6：インテリア構法、床、壁
15	第1章6：天井、開口部、 法規関連：シックハウスと換気
16	参考資料により、内法、造作、和風造作
17	第2章3：インテリアエレメント 照明器具 ウインドウトリートメント
18	第1章1：インテリアの歴史

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0301	科 目 名	環境工学			科目区分	兼任
科 目 群	建築設備	担当講師	加藤 諭			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	図解建築環境工学の知識			教材・参考書：プリントの配布			
成績評価	試験（中間及び期末試験）60％ その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築環境工学に関する基礎的な考え方、理論を理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した環境工学全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

1	授業ガイダンス
2	環境工学の概要・SI 単位系（本授業で取り上げる単位等）
3	採光①：明視の条件・光の単位・輝度対比・グレア・昼光率・均斉度・建物の採光特性・昼光利用等
4	採光②：人工採光（照明）・配光・照度計算・照明方式・色温度・照度基準・各種光源の特性と種別等
5	外部環境①：日較・年較差・デグリデ - ・卓越風都市環境と地球環境、ヒートアイランド、温暖化、オゾン層破壊等
6	外部環境②：日照・日射・日影・太陽の高度と方位角・日照時間と可照時間・日照の調整・南中時等
7	採光、外部環境まとめ、問題演習
8	色彩①：色の三属性・色の三原色（混色）・マンセル表色系・オストワルト表色・XY 表色・色彩心理効果等
9	色彩②：色の表れ方・演色性・色彩対比・色彩調整・安全色・建築及びインテリアへの色彩応用等
10	音環境①：音の三要素・音の伝わり方・音の速度・音の合成・可聴域・等ラウドネス曲線・カクテルパーティー効果等
11	音環境②：明瞭度・了解度・残響時間・許容騒音レベル・建物の音響計画・遮音性能・防音と吸音等
12	色彩、音響まとめ、問題演習
13	自然換気：室内の空気環境・大気汚染物質・室内空気汚染原因・汚染物質と必要換気量・空気齢等
14	自然換気：自然換気特性（重力、風力）・各種換気算定（火気使用、シックハウス、法令）、機械換気 3 種等
15	熱環境①：熱移動の基本・熱伝導率・熱貫流率と熱貫流抵抗・熱放射・中空層と熱抵抗等
16	熱環境②：日射による熱への影響・相当外気温度差・日射遮蔽係数・建物の熱特性・壁の熱容量等
17	熱環境③：湿り空気・露点温度（結露点）・空気線図・結露現象・外部結露と表面結露・断熱効果等
18	換気、熱環境まとめ 問題演習

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0302	科 目 名	建築設備 A			科目区分	兼任
科 目 群	建築設備	担当講師	加藤 諭			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	図解建築設備の知識（改訂 3 版）			教材・参考書：プリントの配布			
成績評価	試験（中間及び期末試験）60％ その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築設備の各項（衛生・空調・電気）について用語・方式・法的基準・施工技術等について理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した建築設備全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

1	授業ガイダンス
2	建築設備の概要：設備業態・設備資格・建築基準法との関連・設備と躯体関連
3	給水設備①：上水の概要・戸建住宅等の給水・給水圧の規定値・給水器具の分類・関連用語の解説
4	給水設備②：給水方式（5 方式）・受水槽の構造及び設置規定・受水槽の容量算定（給水計算）
5	給水設備③：給水ポンプの構造と種別・給水ポンプ能力の算定・給水配管材（口径と配管抵抗）
6	給湯設備：給湯方式・給湯器の構造と種別・出湯号数・電気式温水器の仕組み・給湯配管材
7	排水設備①：排水方式（合流・分流）・トラップの構造と規定値・トラップの封水破壊と保護・排水勾配
8	排水設備②：排水通気方式（ルーフ通気と伸張通気）・排水処理・浄化槽の構造と法的規定・排水管
9	排水設備③：特殊排水処理（厨房排水など）・雨水排水処理・排水桝の種別・排水槽の構造
10	衛生器具設備：衛生器具種別と特性・衛生器具の機能性
11	給排水設備まとめ、問題演習
12	ガス設備：ガス種別（LPG と LNG）・ガス圧区分・ガス漏れ警報器の設置規定・ガスの安全使用
13	消火設備①：消防法の構成・屋内消火栓、屋外消火栓の各構造と法令規定
14	消火設備②：スプリンクラー、ドレンチャー、パッケージ消火設備の各構造と法令規定
15	消火設備③：連結送水管、連結散水、特殊消火設備（ガス系・泡・粉末・水噴霧）の法令規定
16	衛生設備の配管方式①：PS（パイプスペース）の計画、MB（メーターボックス）の計画
17	衛生設備の配管方式②：配管方式（床上・床下・さや管ヘッダ方式）・衛生配管種別
18	ガス、消火設備まとめ、問題演習

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0303	科 目 名	建築設備 B		科目区分	兼任	
科 目 群	建築設備	担当講師	加藤 諭		履修区分	講義	
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	図解建築設備の知識（改訂 3 版）			教材・参考書：プリントの配布			
成績評価	出席率・中間及び期末試験の総合評価						

1. 授業概要

各種設備の役割や機能性、必要となる機器の種別や設置、配管スペース等について理解する。

2. 到達目標

建築実務及び建築系資格に対応した建築設備全般について理解し、専門知識を習得する。

3. 授業計画

1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要）
2	換気設備：機械換気の目的・機械換気方式・ファン類の種別・法令上の換気計算・全熱交換機等
3	排煙設備：建築排煙と消防排煙の目的・機械排煙方式・法令上の排煙規定・付室加圧給気防煙等
4	空調設備①：空気調和の基本・室内温熱環境・空気の状態変化・空調（冷暖房）負荷等
5	空調設備②：空調用熱源設備・冷凍機の特性と種別・ボイラーの特性と種別・冷却塔・ヒートポンプ
6	空調設備③：空気調和機（AHU・FCU）の特長・空調配管及びダクト、制気口、ダンパの役割
7	空調設備④：空気調和方式（単一ダクト、二重ダクトなど）・個別空調（パッケージ空調）等
8	換気・空調設備まとめ、問題演習
9	電気設備①：電気設備の概要・関連法規・電気基礎理論・受電・変電（キュービクル）・幹線等
10	電気設備②：動力設備・分電盤（動力盤）の構成・電力量計・回路の構成・自家発電及び蓄電池等
11	電気設備③：照明（電灯）コンセント設備・コンセントとスイッチの種別・照明器具と照明方式等
12	電気設備④：弱電設備（通信、LAN、ITV、TV共聴他）・避雷設備・自動制御設備等
13	防災設備①：非常照明（建基法）及び誘導灯、非常コンセント・無線通信補助設備（消防法）の基準等
14	防災設備②：自動火災報知・非常警報・非常放送・漏電火災警報器設備（消防法）の設置基準等
15	搬送設備：エレベータ及びエスカレータの構造、法令基準・その他搬送設備等
16	省エネルギー設備①：建築物省エネ法基準・PAL*と一次消費エネルギー係数・ライフサイクルコスト等
17	省エネルギー設備②：コージェネレーション・蓄熱槽・太陽光発電・燃料電池等
18	電気・防災設備まとめ、問題演習

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0401	科 目 名	建築法規			科目区分	兼任
科 目 群	建築法規	担当講師	河村 春美			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	初学者の建築講座（建築法規）			教材・参考書：建築関係法令集			
成績評価	試験（中間及び期末試験）その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築基準法の内容全般を理解する。

2. 到達目標

実務上必要な知識とともに、二級建築士試験レベルに必要とされる部分を重点的に習得する。
--

3. 授業計画

前半	
1	授業ガイダンス
2	建築基準法の概要、法令用語の使い方
3	用語の定義－1（建築物、特殊建築物等）
4	用語の定義－2（耐火建築物、建築等）
5	面積と高さ－1（敷地面積、建築面積等）
6	面積と高さ－2（容積対象延べ面積、高さ、階数等）
7	問題演習
8	一般構造－1（採光）
9	前期中間試験前まとめ
10	一般構造－2（換気）
11	一般構造－3（天井高さ、便所等）
12	構造強度－1（木造一般）
13	構造強度－2（木造軸組み計算）
14	軸組み計算問題演習
15	構造強度－3（その他の構造）
16	耐火・防火（耐火建築物、準耐火建築物）
17	防火地域・準防火地域
18	前期期末試験前まとめ
後半	
1	授業ガイダンス（前期振り返り、後期授業概要説明）
2	防火区画
3	避難施設－1（2 階段、避難階段等）
4	避難施設－2（排煙設備、非常用照明等）
5	道路と敷地
6	用途地域
7	建ぺい率
8	容積率－1（道路幅員による容積率の算定等）
9	問題演習
10	後期中間試験前まとめ
11	容積率－2（特定道路による容積率の算定等）

1 2	高さ制限－1（絶対高さ、道路斜線等）
1 3	高さ制限－2（道路斜線、2方向道路等）
1 4	高さ制限－3（隣地斜線、北側斜線）
1 5	問題演習
1 6	確認申請、建築手続き－1（確認申請等）
1 7	確認申請、建築手続き－2（建築手続き等）
1 8	後期期末試験前まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建 築 科	
科目番号	0501	科 目 名	構造力学 1		科目区分	兼任	
科 目 群	建築構造	担当講師	崎田 由紀		履修区分	講義	
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	試験（中間試験、期末試験）80％、平常点や授業への貢献度20％						

1. 授業概要

構造物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計する上で必要な基礎的な事を学ぶ。

2. 到達目標

静定構造物において力のつり合いを用い、どの部分にどのような力が生ずるか解けるようになる。

3. 授業計画

前半		
1	建築構造設計を学ぶにあたって～構造物に働く力	
2	2. 力の基本 1) 力 1-1 力の表示～2-1 一点に働く力の合成・分解	
3	休講	
4	休講	
5	休講	
6	休講	
7	力の基本 2-2 平行な力の合成・分解 2-3 バリニオンの定理	
8	3. 構造物と荷重および外力 1. 支点と節点 1-1 支点 1-2 節点	
9	5. 反力 単純梁+集中荷重	
10	5. 反力 単純梁+等分布荷重	
11	5. 反力 片持ち梁+集中荷重	
12	5. 反力 単純梁系ラーメン+集中荷重	
13	中間試験類似問題解説	
14	中間試験	
15	3) 部材に生じる力	
16	3) 部材に生じる力 単純梁+集中荷重	
17	3) 部材に生じる力 単純梁+集中荷重	
18	3) 部材に生じる力 単純梁+等分布荷重	
19	期末試験類似問題解説	2 章
20	期末試験	1) 構
後半		2)
1	3) 部材に生じる力 単純梁+等分布荷重、単純梁+斜め荷重	
2	3) 部材に生じる力 単純梁+モーメント荷重、片持ち梁+集中荷重	
3	3) 部材に生じる力 片持ち梁+集中荷重、片持ち梁+等分布荷重	
4	3) 部材に生じる力 片持ち梁+等分布荷重、片持ち梁+モーメント荷重	
5	3) 部材に生じる力 変形問題、節末問題	
6	3. 静定ラーメン 片持ち梁系ラーメン、単純梁系ラーメン+集中荷重	
7	3. 静定ラーメン 単純梁系ラーメン+等分布荷重、3 ヒンジラーメン、	
8	節末問題	

9	中間試験類似問題解説
1 0	中間試験
1 1	静定トラス 2) 節点法 2-1 図式解法
1 2	2-2 クレモナの図解法 例-1
1 3	2-3 算式解法
1 4	2-3 算式解法
1 5	3) 切断法
1 6	3) 切断法
1 7	期末試験類似問題解説
1 8	期末試験

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0502	科 目 名	構造力学Ⅱ		科目区分	兼任	
科 目 群	建築構造	担当講師	崎田 由紀		履修区分	講義	
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	3 回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

不静定構造物の応力の求め方を中心に実務に必要な荷重算定・応力算定などの構造計算の基礎を習得する。同時に、構造力学Ⅰの復習を行うことで一級、二級建築士試験の力学範囲を理解する。さらに構造設計と関連づけた授業を行うことで実務との関連を意識させる。

2. 到達目標

一般的に実設計でも用いられる不静定構造物の応力分布を求める方法（一級建築士資格試験の出題範囲含む）を習得すること。フレーム構造物の崩壊の仕方、そのときの荷重を求める手法を知ること、より丁寧な構造設計が可能となることを理解する。木造の構造計算の概要を理解する。

3. 授業計画

前半			
1	第3章部材の性質と応力度	第4節 梁の変形	4-1 たわみとたわみ角
2	4-2 モールの定理		
3	休講		
4	休講		
5	国民の休日		
6	国民の休日		
7	国民の休日		
8	国民の休日		
9	4-3 支点のたわみとたわみ角		
10	4-4 反曲点		
11	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第1節 不静定梁	1-1 不静定梁の解法
12	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第1節 不静定梁	1-1 不静定梁の解法
13	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第2節 不静定ラーメン	2-1 たわみ角法
14	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第2節 不静定ラーメン	2-1 たわみ角法
15	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第2節 不静定ラーメン	2-1 たわみ角法
16	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第2節 不静定ラーメン	2-1 たわみ角法
17	2 級建築士、1 級建築士問題		
1	2 級建築士、1 級建築士問題		

8			
1 9	期末試験類似問題解説		
2 0	期末試験		
後半			
1	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第2節 不静定ラーメン	2-2 固定モーメント法
2	第4章不静定構造物の部材に生じる力	第2節 不静定ラーメン	2-2 固定モーメント法
3		第2節 不静定ラーメン	2-3 長方形ラーメンの曲げモーメントとせん断力
4		第2節 不静定ラーメン	2-3 長方形ラーメンの曲げモーメントとせん断力
5	2級建築士、1級建築士問題		
6	2級建築士、1級建築士問題		
7	中間試験類似問題		
8	中間試験		
9	第8章木構造	1. 構造計画、	1-1 軸組工法による木構造～ 2-3 存在壁量
1 0	2.壁量設計		
1 1	2-4 四分割法		
1 2	2-4 四分割法		
1 3	2-5 接合部の設計～		
1 4	2ー7 木材および筋かいの品質		
1 5	2級建築士、1級建築士問題		
1 6	2級建築士、1級建築士問題		
1 7	期末試験類似問題		
1 8	期末試験		

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0503	科 目 名	材料力学			科目区分	兼任
科 目 群	建築構造	担当講師	崎田 由紀			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2 回の定期試験、その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

部材の断面を安全でかつ経済的なものとなるよう、形や大きさを決める際の構造材料の力学的性質などについて理解する。

2. 到達目標

部材に生ずる力に対して、安全でかつ経済的に部材を設計する基本的解法を習得する。

3. 授業計画

後期				
1	第 3 章 部材の性質と応力度	第 1 節 断面の性質	1-1 断面 1 次モーメントと図心	
2	1-2 断面 2 次モーメント			
3	1-2 断面 2 次モーメント			
4	1-2 断面 2 次モーメント			
5	1-3 断面係数			
6	1-4 断面 2 次半径			
7	中間試験類似問題解説			
8	中間試験			
9	第 3 章 部材の性質と応力度	第 2 節 建築材料の力学的性質	2-1 応力度	
1 0	2-2 ひずみ度、2-3 弾性体の性質			
1 1	2-4 材料の強さと許容応力度			
1 2		第 3 節 部材に生じる応力度	3-1 曲げモーメントを生じる部材	
1 3	3-2 引張力を生じる部材			
1 4	3-3 圧縮力を生じる部材			
1 5	期末試験類似問題解説			
1 6	期末試験			
1 7	追試期間			
1 8	追試期間			

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0504	科 目 名	鉄筋コンクリート構造		科目区分	兼任	
科 目 群	建築構造	担当講師	崎田 由紀		履修区分	講義	
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2 回の定期試験、その他平常点や授業への貢献度を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

鉄筋コンクリートとは、建築物の骨組を構成する構造材料のうち、主要な材料の一つである。本講では鉄筋コンクリート構造の力学的特性を学び、それらを踏まえた設計法の基礎知識を身につける。

2. 到達目標

鉄筋コンクリート構造の基礎的な許容応力度設計ができるようになる。

3. 授業計画

後期				
1	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 1 節 鉄筋コンクリート構造		
2	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 1 節 鉄筋コンクリート構造		
3	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 2 節 許容応力度設計	2-1 構造計画	
4			2-2 準備計算	
5	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 2 節 許容応力度設計	2-3 ラーメン部材に生じる力の計算	
6			2-4 曲げを受ける梁	
7	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 2 節 許容応力度設計	2-5 軸力と曲げを受ける柱	
8			2-6 せん断を受ける梁・柱	
9	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 2 節 許容応力度設計	2-7 付着・定着	
10			2-8 スラブ	
11	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 2 節 許容応力度設計	2-9 基礎	
12			2-10 耐震壁	
13	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 3 節 極めて稀に生じる地震に対する安全性の確認	3-1 耐震性の評価	
14	第 6 章 鉄筋コンクリート構造	第 3 節 極めて稀に生じる地震に対する安全性の確認	3-1 耐震性の評価	
15	期末試験類似問題解説			
16	期末試験			
17	追試期間			
18	追試期間			

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0505	科 目 名	鉄骨構造			科目区分	兼任
科 目 群	建築構造	担当講師	崎田 由紀			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	必修
教 科 書	建築構造設計概論			教材・参考書			
成績評価	2 回の定期試験と演習を総合的に評価する。						

1. 授業概要

構造設計の概要と構造物に作用する荷重・外力の種類学び、鋼構造に用いられる鋼材の種類や特性を理解する。

2. 到達目標

鋼構造の知識の習得と共に、接合部および主要な部材を決定するまでの方法論を修得する。

3. 授業計画

前期			
1	第 5 章 構造設計の考え方	第 1 節 構造設計の概要	1-1 構造設計～
2		第 2 節 荷重および外力の計算	2 -1 荷重および外力～2-4 積雪荷重
3		第 2 節 荷重および外力の計算	2-5 風圧力～2-6 地震力
4		第 3 節 モデル化と部材に生じる力・変位計算	3-1 主要構造の計算
5		第 4 節 耐震設計の二次設計	4-1 法律による検証の分類
6			4-4 保有水平耐力計算
7	第 7 章 鋼構造	第 1 節 鋼構造	1-1 概要～
8		第 2 節 許容応力度設計	2-1 構造計画～
9	第 7 章 鋼構造		2-4 引張材の設計
1 0			2-5 圧縮材の設計
1 1	第 7 章 鋼構造		2-6 梁の設計
1 2			2-7 柱の設計
1 3			2-8 接合部の設計
1 4	第 3 節 極めて稀に生じる地震に対する安全性の確認		3-1 地震力による部材に生じる力の割増
1 5	期末試験類似問題演習・解説		
1 6	鋼構造 期末試験		
1 7	追試期間		
1 8	追試期間		

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0601	科 目 名	建築施工		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	建築施工	担当講師	関村啓太		履修区分	講義	
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	雨宮幸蔵ほか『誰でもわかる建築施工(改訂 2 版)』彰国社 (一社) 日本建設業連合会編『施工がわかるイラスト建築生産入門』 彰国社			教材・参考書			
成績評価	前期中間試験 22.5%、前期期末試験 22.5%、後期中間試験 22.5%、後期期末試験 22.5%、平常点 10%						

1. 授業概要

建築物の施工法を包括的にしめし、その手順を習得する。

2. 到達目標

建築物の各種工事の手法について、総合的に理解する。

3. 授業計画

前半	
1	授業ガイダンス
2	建築施工のあらまし
3	建設業の変遷・施工法の変遷
4	請負契約・直営と請負契約・施工者の選定
5	入札・談合
6	見積方式・工事計画
7	工事計画の進め方・工程表
8	ネットワーク工程表
9	仮設工事・登り栈橋
10	各種足場・地下工事
11	土工事
12	山留め
13	杭工事・既製杭
14	場所打ち杭
15	各種杭工法
16	鉄筋コンクリート工事・鉄筋の加工
17	構造図の見方・圧接継ぎ手
18	講義まとめ
後半	
1	授業ガイダンス
2	型枠工事
3	場所打ちコンクリート工事・コンクリートの品質
4	各種コンクリート製品工事・PC・コンクリートブロック・ALC
5	鉄骨系工事・工場加工
6	現場作業
7	木質系工事・材料・金物
8	造作工事
9	枠組み壁工法

1 0	中間試験前講義まとめ
1 1	内装仕上げ工事・防水工事・各種防水
1 2	アスファルト防水
1 3	シーリング工事
1 4	タイル工事
1 5	石工事
1 6	屋根工事
1 7	左官工事
1 8	講義まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0602	科 目 名	建築材料			科目区分	専任
科 目 群	建築生産	担当講師	関村啓太			履修区分	講義
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	野口貴文ほか『ベーシック建築材料』彰国社			教材・参考書			
成績評価	前期中間試験 22.5%、前期期末試験 22.5%、後期中間試験 22.5%、後期期末試験 22.5%、平常点 10%						

1. 授業概要

建築を構成する材料を包括的にしめし、その性質を習得する。

2. 到達目標

建築設計を行うために使用する建築材料の特性について正しく理解し、素材の選択ができるようになる。

3. 授業計画

前半	
1	概論・規格
2	木材①
3	木材②
4	木材③
5	コンクリート①
6	コンクリート②
7	コンクリート③
8	鋼材①
9	鋼材②
10	鋼材③
11	非鉄金属
12	石材
13	タイル・レンガ
14	プラスチック
15	防水材料
16	ガラス
17	前期講義まとめ
18	前期確認試験
後半	
1	屋根材料
2	左官材料
3	内装材①
4	内装材②
5	断熱材料
6	各種金物
7	衛生陶器
8	システム
9	石こうボード
10	畳・繊維製品

1 1	接着剤
1 2	新素材①
1 3	新素材②
1 4	産業廃棄物
1 5	仕上表の読み方
1 6	施工図（割付図）の読み方
1 7	後期講義まとめ
1 8	後期確認試験

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0603	科 目 名	建築構法		科目区分	兼任	
科 目 群	建築生産	担当講師	足立 真輝・早川 慶太		履修区分	講義・演習	
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築構法 彰国社			教材・参考書			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築物の基礎的な構成と構造方式を学ぶ。建築物の構法が選択される背景や意図をさまざまな視点から学ぶ。

2. 到達目標

構法という視点で建築物を観たり考えたり出来るようになる。

3. 授業計画

前半	
1	オリエンテーション
2	構法のきほん
3	躯体構法（組積造）
4	躯体構法（鉄骨造）
5	躯体構法（鉄筋コンクリート）
6	躯体構法（木造）
7	鉄骨造の現場（DVD）
8	鉄筋コンクリート造の現場（DVD）
9	木造住宅のつくられ方
10	震災と構法 -1
11	震災と構法 -2
12	東京駅と構法
13	オリンピックと構法
14	都市木造と構法
15	住宅と構法
16	レポート課題の説明
17	ワークショップ -1
18	ワークショップ -2
後半	
1	オリエンテーション（授業概要説明）
2	模型制作ツールの使用方法解説
3	立方体の作成（基礎的立体造形の訓練）
4	立方体の輪郭を意識した自由造形①
5	立方体の輪郭を意識した自由造形②
6	様々な屋根の表現手法（屋根伏図と立面図から立体像を読み取る訓練）
7	方形屋根の模型作成
8	複雑な屋根形状の模型作成
9	基本設計と構法（エスキス）①
10	基本設計と構法（エスキス）②
11	模型制作計画（エスキス）①

1 2	模型制作計画（エスキス）②
1 3	模型制作作業
1 4	模型制作続き
1 5	設計課題講評①
1 6	設計課題講評②
1 7	設計課題講評③
1 8	講義総括

科目の教育目標・授業計画「2024 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0604	科 目 名	建築積算			科目区分	兼任
科 目 群	建築生産	担当講師	原 弘光			履修区分	講義
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築数量積算基準			教材・参考書 積算リスト・種積算資料			
成績評価	定期試験と演習課題を総合的に評価する。						

1. 授業概要

建築数量積算基準と例題の解説および演習を行うことで、建築価額の内容や構成などを学ぶ。

2. 到達目標

数量積算技術の算出方法の基礎の修得する。

3. 授業計画

前半	
1	授業概要説明
2	積算概論① 定義、役割、業務の説明。総則の説明
3	直接仮設① 基準の解説、用語の説明
4	直接仮設② 計測・計算、例題の説明
5	土工地業① 基準の解説、用語の説明
6	土工地業② 基準の解説、用語の説明
7	土工地業③ 計測・計算、例題の説明
8	直接仮設・土工地業のまとめ
9	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
10	コンクリート型枠② 基準の解説、用語の説明
11	鉄筋① 基準の解説、基準の解説、用語の説明
12	鉄筋② 基準の解説、基準の解説、用語の説明
13	鉄筋③ 基準の解説、基準の解説、用語の説明
14	コンクリート・型枠・鉄筋① 計測・計算、例題の説明
15	コンクリート・型枠・鉄筋② 計測・計算、例題の説明
16	コンクリート・型枠・鉄筋③ 計測・計算、例題の説明
17	問題演習（1）
18	問題演習（2）
後半	
1	オリエンテーション
2	鉄骨① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
3	鉄骨② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
4	鉄骨③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
5	鉄骨④ 計測・計算、用語の説明
6	仕上① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
7	仕上② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
8	仕上③ 基準の解説、計測・計算、用語の説明
9	仕上④ 計測・計算、例題の説明
10	仕上⑤ 計測・計算、例題の説明
11	鉄骨・仕上のまとめ

1 2	改修① 基準の解説、計測・計算、用語の説明
1 3	改修② 基準の解説、計測・計算、用語の説明
1 4	内訳書① 作成、単価（刊行物記載確認）
1 5	内訳書② 作成、単価（刊行物記載確認）
1 6	内訳書③ まとめ
1 7	問題演習（1）
1 8	問題演習（2）

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0701	科 目 名	設計製図 I		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	設計製図	担当講師	星裕一郎・萩原 秀規・上 彩夏		履修区分	実習	
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	8	授業形態	必修
教 科 書	定番 建築製図入門			教材・参考書：プリント配布			
成績評価	課題図面全提出による評価 1 0 0 %						

1. 授業概要

製図の基本となる線の引き方、線の種類や太さ、製図記号のルールを学習する。

2. 到達目標

各種図面の表現方法を木造・RC 造ごとにコピーとオリジナル設計をすることで修得する。

課題に基づいた実習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

3. 授業計画

前期	
1	課題－1：「製図の基本」線，文字，記号の練習
2	課題－2：立体の理解
3	課題－3：図面基礎の理解 その1
4	図面基礎の理解 その2
5	課題－4：木造建築の理解 その1
6	木造建築の理解 その2
7	木造建築の理解 その3
8	木造建築の理解 その4
9	木造建築の理解 その5
10	木造建築の理解 その6
11	木造建築の理解 その7
12	課題－5：木造建築設計 その1 住宅
13	木造建築設計 その2
14	木造建築設計 その3
15	木造建築設計 その4
16	木造建築設計 その5
17	木造建築設計 その6
18	木造建築設計 その7
後期	
1	木造建築設計 その8
2	木造建築設計 その9
3	木造建築設計 その10
4	課題－6：RC 造建築設の理解 その1
5	RC 造建築設の理解 その2
6	RC 造建築設の理解 その3
7	RC 造建築設の理解 その4
8	RC 造建築設の理解 その5

9	課題－ 7 : RC 造建築設設計	その 1
1 0	RC 造建築設設計	その 2
1 1	RC 造建築設設計	その 3
1 2	RC 造建築設設計	その 4
1 3	RC 造建築設設計	その 5
1 4	RC 造建築設設計	その 6
1 5	RC 造建築設設計	その 7
1 6	RC 造建築設設計	その 8
1 7	RC 造建築設設計	その 9
1 8	RC 造建築設設計	その 1 0

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0702	科 目 名	設計製図Ⅱ		科目区分	専任・実務経験教員	
科 目 群	設計製図	担当講師	牟禮 智恵子・藤田 修司・萩原秀規		履修区分	実習	
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	建築製図			教材・参考書 プリント・写真・建築雑誌			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

課題を通して、製図方法、技術的課題、空間の把握を学ぶ。

2. 到達目標

コンセプトから具体的建築へと展開する設計のプロセスを身につける。

課題に基づいた演習を基本とするが、実際の敷地を設定し、実際の実務に近いプロセスを経験する課題を行う。担当教員は、設計事務所にて設計・監理業務に従事した経験があり、実務経験に基づいた建築設計教育を展開する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 講師事例紹介、構造別講義
2	第1課題「集まって住む（集合住宅）」 課題説明、事例調査、敷地模型制作
3	事例発表、エスキスチェック
4	エスキスチェック
5	エスキスチェック
6	エスキスチェック
7	中間発表
8	プレゼンテーション準備
9	作図1（平面図・断面図・立面図）
10	作図2（平面図・断面図・立面図）
11	作図3（平面図・断面図・立面図）
12	作図4（まとめ）
13	プレゼンテーション準備1（作図、模型製作など）
14	プレゼンテーション準備2（作図、模型製作など）
15	プレゼンテーション準備3（作図、模型製作など）
16	プレゼンテーション準備4（作図、模型製作など）
17	プレゼンテーション準備5（作図、模型製作など）
18	発表

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0703	科 目 名	CAD I		科目区分	兼任	
科 目 群	設計製図	担当講師	小島善文・伊東達三		履修区分	選択必修	
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	実習
教 科 書	CAD リテラシー演習（A&A）			教材・参考書：			
成績評価	教科書課題提出と理解度、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

VW を使って、教科書の各課題の解説・実習を行い、CAD の初歩的な使い方・目的を理解する。

2. 到達目標

今後、CAD をデザインツールとして使って行くための、基本的な理解を高める。

3. 授業計画

後期	
1	オリエンテーション（授業概要・教科書の使い方/表記/構成 について）
2	第1章 作図の基礎
3	第1章 作図の基礎
4	第1章 作図の基礎（チャレンジ課題）
5	第2章 製図の基礎
6	第2章 製図の基礎
7	第2章 製図の基礎（チャレンジ課題）
8	第3章 効率的な作図
9	第3章 効率的な作図
10	第3章 効率的な作図（チャレンジ課題）
11	第4章 3Dモデリング
12	第4章 3Dモデリング
13	第4章 3Dモデリング（チャレンジ課題）
14	CAD 高等ドリル
15	CAD 高等ドリル
16	CAD 高等ドリル
17	CAD 高等ドリル
18	授業まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0704	科 目 名	CADⅡ			科目区分	兼任
科 目 群	設計製図	担当講師	安松一雄			履修区分	実習
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	選択必修
教 科 書	できる AutoCAD2019			参考書	配布プリント		
成績評価	課題演習と出席を総合的に評価する						

1. 授業概要

業界でスタンダードになっている AutoCAD の基本操作を習得する

2. 到達目標

AutoCAD で図面作成に必要な基本操作を習得する。BIM の概念を簡単なモデリングをすることで理解する。

3. 授業計画

1	画面構成
2	基本操作
3	各種設定
4	ツール
5	作成
6	修正
7	寸法
8	ダイナミックブロック
9	図面レイアウト
10	製図の手順
11	建築図面作成
12	建築図面作成
13	建築図面作成
14	建築図面作成・BIM 概論
15	BIM (ArchiCAD) 演習 1
16	BIM (ArchiCAD) 演習 2
17	BIM (ArchiCAD) 演習 3
18	BIM (ArchiCAD) 演習 4

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」						学 科 名	建築科
科目番号	0704	科 目 名	C A D II			科目区分	兼任
科 目 群	設計製図	担当講師	小島善文／伊東達三			履修区分	選択必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書	10 日でマスター！VECTORWORKS Ver. 2022 対応			教材・参考書：演習データ、補足課題・補足資料			
成績評価	毎回の課題と、授業の理解度で総合的に評価する。						

1. 授業概要

VectorWorks・RenderWorks の操作方法を学習し、図面作成・プレゼンテーションのスキルを学ぶ。

2. 到達目標

2 D / 3 D の各種課題を通して、総合的な表現・操作が出来るようになる。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	2 D 基本 01 VECTORWORKS の基本
3	2 D 基本 02 2D 作図の基本(1)
4	2 D 基本 03 2D 作図の基本(2)
5	2 D 応用 04 2D 作図の応用(1)
6	2 D 応用 04 2D 作図の応用(1)
7	2 D 応用 05 2D 作図の応用(2)+2D 住宅作図
8	2 D 応用 05 2D 作図の応用(2)+2D 住宅作図
9	3 D 基本 06 3D モデリングの基本
1 0	3 D 基本 06 3D モデリングの基本
1 1	3 D 応用 07 建物のモデリング(2D/3D モデルの作成)+3D 住宅モデリング
1 2	3 D 応用 07 建物のモデリング(2D/3D モデルの作成)+3D 住宅モデリング
1 3	3 D 応用 08 レンダリングとテクスチャーマッピング
1 4	3 D 応用 08 レンダリングとテクスチャーマッピング
1 5	3 D 応用 09 カメラと光源
1 6	3 D 応用 09 カメラと光源
1 7	2 D / 3 D 10 プレゼンボードの作成
1 8	2 D / 3 D 10 プレゼンボードの作成

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0801	科 目 名	建築測量		科目区分	兼任	
科 目 群	実験実習	担当講師	関村啓太 岩田昭雄		履修区分	実習	
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	必修
教 科 書	なし			教材・参考書：配布資料			
成績評価	測量成果の提出・内容、平常点を加味して総合的に評価する。						

1. 授業概要

各測量の基礎的な知識と各種測量機器の取り扱いを理解する

2. 到達目標

測量機器の基本的な操作方法を修得する

3. 授業計画

前期	
1	授業概要説明・測量概要
2	水準測量 1（基本・チルチングレベル）
3	水準測量 1（基本・チルチングレベル）
4	水準測量 2（基本・チルチングレベル・誤差調整法）
5	水準測量 2（基本・チルチングレベル・誤差調整法）
6	水準測量 3（応用・チルチングレベル）
7	水準測量 3（応用・チルチングレベル）
8	平板測量 1（トラバース測量）
9	平板測量 1（トラバース測量）
10	平板測量 2（細部測量）
11	平板測量 2（細部測量）
12	角測量 1（基本・トランシット・方向角の算出）
13	角測量 1（基本・トランシット・方向角の算出）
14	角測量 2（応用・トランシット・トラバース・面積計算）
15	角測量 2（応用・トランシット・トラバース・面積計算）
16	（トータルステーションによる内角・距離測量）
17	（トータルステーションによる内角・距離測量）
18	レポート作成、まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025 年度」					学 科 名	建築科	
科目番号	0901	科 目 名	パースペクティブ		科目区分	専任・兼任	
科 目 群	造形基礎	担当講師	牟禮 智絵子・足立 真輝		履修区分	演習	
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	必修
教 科 書	基本・建築製図と表現方法			教材・参考書 プリント			
成績評価	各課題の評価と、平常点を総合的に評価する。						

1. 授業概要

軸測投影法（アクソメトリック）、透視図法（1 消点透視法、2 消点透視法）の表現方法を学ぶ。
--

2. 到達目標

視覚表現による他者とのコミュニケーション力の修得する

3. 授業計画

前半	
1	はじめに（自己紹介、授業内容、目標）
2	建築の仕事、パースの仕事、スケッチ演習
3	スケッチ演習発表
4	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 1
5	軸測投影法（アクソメトリック）・ブロック 2
6	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 1
7	軸測投影法（アクソメトリック）・立方体 2
8	軸測投影法（アクソメトリック）・室内
9	色・着彩（1）
10	色・着彩（2）
11	軸測投影法（課題）
12	軸測投影法（課題）
13	軸測投影法（課題）
14	軸測投影法（課題）
15	軸測投影法（課題）
16	色・着彩（1）
17	色・着彩（2）
18	軸測投影法・まとめ
後半	
1	夏休み課題（講評会）
2	1 消点透視法（パース） 1
3	1 消点透視法（パース） 2
4	2 消点透視法（パース） 1
5	2 消点透視法（パース） 2
6	2 消点透視法（課題） ビル
7	2 消点透視法（課題） ビル
8	2 消点透視法（課題） ビル
9	2 消点透視法（課題） ビル
10	2 消点透視法（課題） ビル（着彩）
11	2 消点透視法（課題） ビル（着彩）

1 2	2 消点透視法（応用） 1
1 3	2 消点透視法（応用） 2
1 4	2 消点透視法（応用） 3
1 5	2 消点透視法（応用） 4
1 6	簡易パースの演習 1
1 7	簡易パースの演習 2
1 8	消点透視法まとめ